

「ヨケベドの愛」 ～祈りのミルク～

出エジプト2：1～10

モーセの母親は、生んだ我が子をパロ（王）の命令に従って川に流して殺すことができず3ヶ月間手元で育てていました。しかしもう隠しきれなくなりかごに入れて我が子をナイル川に流しました。するとそこで偶然パロの娘が水浴びをしていて、女中たちが流れてきた子どもを拾い上げます。この子がモーセです。モーセとは引き上げた・救いあげたという意味です。このモーセのお母さんはヨケベドと言います。ヨケベドの「ヨ」は「ヤハウェ＝神」「ケベド」は「栄光」という意味です。「ヨケベド」＝「神の栄光」と言うことです。神の栄光をあらわすヨケベドの子どもが救いあげる意味のモーセです。モーセが救い出すことを通して神の栄光があらわされるのです。普通の人は「財産を捨てないと殺す」と言われれば財産を捨ててでしょう。しかしヨケベドは母でした。もしも子どもが生きることが王に見つかれば母子共に殺されるかもしれない、でも、愛するが故に殺すことができずに隠し続けていたのです。しかし隠しきれなくなったので苦肉の策で川に流したのです。そして次にその子の乳母になります。乳母とは子どもが泣いた時だけ母乳を与えるだけで愛情を流すことは一切禁止です。そういう役割を担ったのです。ヨケベドはイスラエルの民で奴隷の身分でした。王宮でもバカにされながら乳母をしなければならなかったでしょう。そして愛するわが子は他の人が母として育てている、とてもつらい環境でした。その子に語ることも愛情を流すこともできませんが、しかし彼女は自分の思いを祈りに変えて母乳を与えていたのです。私たちはヨケベド…神の栄光をあらわしているでしょうか？私たちは母の役割を担わなければいけません。そして私たちは今、母として栄光をあらわしているでしょうか？その栄光とは子ども（自分たちに任された人）たちに素晴らしい光を照らしているか？と言うことです。母は子どもを産んだ時から母乳が出ます。母乳にはオキシトシンという成分が含まれていて、これは母親が子どもを見つめながら母乳をあげているとたくさん生産されます。このオキシトシン＝母乳の愛が子どもに届くとその子は社会協調性や安心感や人とのコミュニケーション能力を持つそうです。人との良い関係を築くことができるようになります。しかし最近の母親はだばこを吸いながら・テレビを見ながら・夫婦げんかをしながらか母乳を与えるのでこのオキシトシンが出ないので3歳までの間母性愛が出ない子どももお母さんを必要だと求めません。母親が母親として子どもと関わるためには3歳までにどれだけその子に母性愛を持つかどうかだそうです。この母の日に私たちは「母」を取り戻さなくてはいけません。モーセの母ヨケベドは我が子を失わないといけない時に母の感情で行動したのではなく母の感情を祈りに込めたのです。その結果ヨケベドはその子モーセに愛する流すべきものをしっかりと流し与えることができたのです。だからモーセは300万人もの奴隷として苦しい生活をしていた人々を救い出す大きな役割を担う人になるのです。モーセはエジプトの王子として育ちますが自分の同胞がエジプト人に痛めつけられているのを見てそのエジプト人を殺してしまいます。そして逃げますがその80年後に母親から愛されたことを思い自分の同胞を救わなければならないと思い神さまに召し出されてイスラエルの民をカナンの地へと導くのです。モーセがこのような立派な決断をするようになるには、母親のヨケベドの背景があったのです。母は生涯母です。その母にとって大切な仕事は、子ども（自分たちに任された人）たちにヨケベドの様に自分のやってあげたいこと全てを母乳（ミルク）と言う祈りに込めて育てると言うことです。だからモーセは川に捨てられたけれども3歳までの間母親から愛された愛をもって多くのイスラエルの民を救うという大きな働きをする人に育てあげられたのです。モーセにも私たちにも3歳までの記憶はありません。しかし私たちは母から愛されたことを知り、また、母を知らずに生まれてい人もその愛を様々な人から受け育ちます。私たちは、この受けた母性愛を持ち続けなければなりません。そしてこの愛を余分なところで用いてはいけません。この母の思いを祈りに変えて、この私たちの祈りが世の中を変え、多くの人を造り変えることのできる大きな力なのです。もう一度母を取り戻す!!!母の思いを持つからこそ私たちは愛を流せるのです。神の犠牲の愛は母の愛に例えることができると聖書ではよく書かれています。私たちはこれからの人生の中で苦しみ葛藤を覚える時があるでしょう。そんな時に大切なのは母の本当の役割と任務しっかりと終えなければならないと言うことです。だから私たちはもう一度3歳までに経験した母の愛を取り戻さなくてはいけません。（イザヤ49：13～19）私たちは、悪いことが起こると「私は不幸だ」「運から見放された」と言ってしまうがちです。しかし、不幸だとか見放された＝私は愛されていない思っている傷ついた心を癒すことができるのは母の愛です。母の愛は私たちを包み癒してくれるものです。母（私たち）が祈ることを忘れずにいつも我が子（任された人）のために祈ることを忘れずに願っていればその子には必ずその愛が届くのです。私たちに関わる多くの人のために私たちがこの母の愛をもって祈ることで多くの人はその愛されたことを知るのです。そして神さまは「たとえ、女たちが忘れようともわたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける。あなたの城壁は常にわたしの前にある。」（15・16節）とされています。「手のひら」とはイエスキリストの十字架をあらわしています。私たちはいつもこの神さまの愛を持っていることで人々に愛を流すことができます。母の日というのはもう一度母の愛に感謝をする時ですが感謝するだけではこの世の中の人と何らかわりがありません。私たちは母に感謝するだけでなく、その感謝した母の愛をもって私たちが母親にならなければならないのです。私たちに任された子ども（人）たちが必ずいます。私たちにしかついていけない・頼れない人たちがいるのです。その人たちに対して私たちは母として愛を流し、そのために犠牲を払って仕えることを通して1人の人の人生が変わり、結果、多くの人の人生が変えられるのです。「全能の神」をヘブル語で「エルシャダイ」と言いますが「母の乳房」という意味です。ずっと話していますが3歳でその子の人生が決まり母から与えられるミルクを通して愛を受け取るのです。そして人々と関わる力を身につけます。「神の全能」というのは母が与えた愛に関係しているのです。全てを知ることができる・平和に暮らせる・安心できるのは母の愛が源なのです。もし私たちの人生の中に問題や思い煩い・葛藤・苦しみがあるならばそれは神さまにゆだねましょう。イエスキリストはそのために十字架にかかられたのです。ヨケベドもモーセの全ての痛みと苦しみを自分の胸に刻んでそれを祈りとしてミルクにして子どもに流し続けたのです。だから私たちも神さまに全ての重荷や葛藤をゆだねて私たちが与えるべきいのりの母乳を私たちが任されている人たちに流していきましょう。（要約者：行司佳世）